ンで講師が話した
とめた「庄内のか
話　あれこれ」

の浄福寺の唐門＝酒田市中央西町

、森敦のエピソードも

案約160年の蔵を改装した日本料理店A（るな）」を会場に庄内地方の歴史やふ「土蔵サロン」で講師が話した内容を集「庄内のかたち　秘話　あれこれ」が

講話は、元芥文学保存会（鶴岡市）「庄内で戦争」「庄坊集落の庄内」な義民顕彰同）の「自」など2非常勤講（酒田市）くり」、さん（鶴内と藤島（へんさん（同）酒」など。んは「文説家の横ソードを鶴岡市の女性と結婚。森は師の横光に倣い、夫妻の媒酌で酒田市の女性と式を挙げたことに触れ、「森は師の文学を越えようと鶴岡市大網の注連寺を訪れ、湯殿山の山懐に一冬こもった体験が小説『月山』に結実した」と結んでいる。

事務局の平田惇さんら6人が編集委員会を作り、2009～10年の講話を中心にまとめた。土蔵サロンは08年4月に発足し、月1、2回のペースで各分野の専門家を招いて講話を聞く集いを開いている。平田さんは「これを読むと庄内が分かると関係者からは好評だ。観光客向けの土産品としても売りたい」と話している。B6判179ページで、600冊を印刷した。700円（税込み）。問い合わせは保科一彦さん090（6780）1217。

酒田の食文化 再認識

食材講話と「北前料理」食事会

の影響を受けている酒田の食文化について
んだ食事会　＝酒田市

酒田商工会議所が企画し、商業3部会の会員24人が参加。酒田の郷土料理をブランド化するために考案された「北前料理」を、さくら亭の本間公輝社長(58)が紹介し、使用した食材などを説明した。

棒ダラのみそ風味煮、寒ダラ汁、弁慶飯のお茶漬けなどのメニューを用意。本間社長は、酒田の料理は北前船で上方などからもたらされた食文化の影響を受けており、代表的な「うら亭で開かれた。

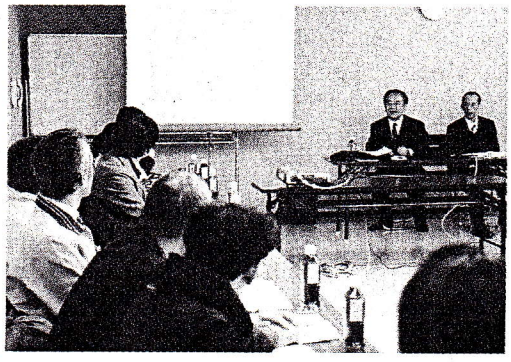
用するのも特徴だ」と語り、参加者は調理法や料理名の由来などを聞きながら、じっくりと味わっていた。

1423.1.29 山

中山間地域農家と市街地商店街
連携深め活性化さらに
鶴岡で会検討

鶴岡市の中山間地域の農家と市街地商店街の連携強化を図る検討会が28日、市勤労者会館で開かれた。中山間地域の農産物や加工品を商店街などに直接出向いて販売する商店街が生産者と消費者の橋渡し役になれば」などの意見などが出された。

金丸さんは、生産者側に対し、「その土地の特色ある農産物を使った商品開発に積極的に取り組むべきだ。その鍵は女性が握っている」と指摘。商店街関係者は「地元の農や食は商店街の売りにもなる。道路を遮断して車を入れない状態で、実証実験として産直市場を展開してみるなど思い切った取り組みが必要だ」などと語った。



「森の産直カー」事業が同市で始まって3年。あらためて関係者が集い、中山間地域の生産者と商店街双方の活性化策について考えた＝写真。

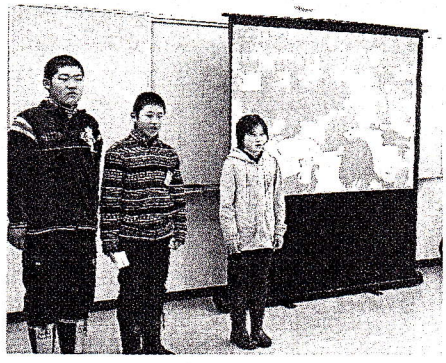
商店街や産直カー関係者などが参加。食環境ジャーナリストや食総合プロデューサーとして全国各地で活躍する内閣府地域活性化伝道師の金丸弘美さんをアドバイザーに招いて意見を交わした。

参加者からは「農産物を作っているが、本当に売れるか分からない」「中心市街地では高齢者の〝買い物難民〟が増えている。商店街でも食品店が減り、産直カーを含め、

どによる　え続ける姿を眺めると心が自然と
と、本間家　落ち着いた。
（健）

黒川能「王祇祭」

150㍍の参道を除雪した。1・3㍍ほどの積雪に、王祇会館職員も「近年まれに見る雪の量」。生徒たちは時折強く吹き付ける雪にも負けず、一心不乱に雪かきに取り組んでいた。



マにした蔵岡小（遊佐町）の児童は、せんべいやクッキーなどのおやつを食べた後の歯の汚れ具合などを調べた結果を報告。「歯に付きやすい食べ物は汚れが残ることが分かった。食べた後はうがいや歯磨きをするように呼び掛けていきたい」と発表した。

酒田港 入港予定船

入港日、船名（国籍、総トン数）、貨物内容

◇29日▽JCフェイバー（パナマ、1597トン）一般▽第八太陽丸（日本、399トン）一般▽イースタンエース（日本、4430トン）一般◇31日▽第二海神丸（日本、498トン）一般

◇新春市民囲碁大会

（23日・酒田市武道館）

◇Aクラス（五段以上）▽5勝＝中村一富六段▽4勝＝戸塚洸希六段、柿崎五郎五段、鈴木健智五段

◇Bクラス（三～四段）▽5勝＝菅省三四段▽4勝＝那須栄一三段、阿曽久一三段、須藤靖男三段

◇Cクラス（二段以下）▽4勝＝阿部敬蔵二段、日下部幸夫二段

弘栄不動産のおすすめ不動